

# 10年ぶりに学食復活

## 「母校愛が結実した27種類のメニュー」

平成28年8月8日の夜、郷土創生特別委員会で学食復活の機運が湧き上がりました。あれから2年8カ月。「文武両道のその前に、飯。」をスローガンにプロジェクトを推進した結果、とうとう学食復活が実現しました。21年に学食が途絶えてから10年ぶりに、研修会館1階の食堂に活気が戻ったのです。

（郷土創生特別委員会・佐藤裕之）

この2年8カ月の間、実行部隊を中心に、課題の議論、調査を重ねてきました。特に29年8月に実施したアンケートの結果は、あらためて学食

復活の必要性、そして緊急性を認識させるものでした（同窓会日より）102号で既報）。

30年春には募金活動を開

## 昨春から募金開始 目標上回る600万円超に

学食を復活するには当然、食堂と厨房が必要ですが、学食廃業からはや10年。厨房機器のほとんどは使用に堪えず、新たに入れ替えをする必要がありました。

当初の調査結果では、厨房機器の入れ替え工事と、食器

などの什器で約400万円程度との見通しでしたので、多少の余裕を見て500万円を目標として募金をスタートしました。昨年春のことでした。

早速、各種銀行等に口座を開設し、ホームページを立ち

上げましたが、それだけでは十分な周知に至らず、募金も思うように伸びませんでした。そこで昨年6月、平成中盤以降に卒業した若手を中心とした「タスクフォース」を

結成し、声掛け運動を徹底することにしました。

メンバーには、多忙な日常生活を犠牲にしなから、支部会に向いて声掛けや集金をするなど大活躍していただきました。その後の「同窓会だ

より」に同封したチラシの効果も相まって、次第に募金

始。当初目標500万円に対して600万円を超える募金

が寄せられ、その資金を活用して、本年3月から厨房改修など行い、4月15日の復活オープンにこぎつけました。

準備したメニューは、懐か

しのカツ飯、天飯を筆頭に牛

丼、ラーメン、そば、カレーなど27種類。中にはちよつとぜいたくな、ばらちらし丼やロコモコ丼のほか、ケータリ

が増え、昨年12月によや

く目標額の500万円を超え、現在までに600万円を上回りました。中には個人で100万円近い大金を匿名で寄付された方もおり、母校に



厨房も大忙し（4月15日）

ングメニューも含まれおり、時代に合った構成になっています。

なおオープンに当たっては、寄付のほかに米などの食

材現物のご提供もいただきました。日常業務の人材を募集したところ、生徒の保護者や、PTAなどからも応募が

あり、何とか人材を確保することができました。皆さん、秋高の役に立ちたいという情熱と理想にあふれていて、本

## 天上天下 TENJO TENGE

「カンボジアで生活し、人々の息遣いを感じながら写真撮りたい」。こんな思いから現地に住み、強権政治に命をかけて戦う人々の姿を追いつながら世界に発信しているフォトジャーナリストがいる。秋田市出身の高橋智史さん

(37)である▼土地の強制収容で暴力的な弾圧を受ける人々。反政府デモ集会に全土から集まった女性たち。活動家たちの保釈を願い悲痛な表情で両手を合わせる老婆――。高橋さんが自ら危険に身をさらしながら撮り続けた写真からは、民衆の怒り、そして悲しみの声が聞こえてくる▼その15年間にわたる取材の集大成ともいえる写真集「RESISTANCE カンボジア 屈せざる人々の願い」(秋田魁新報社刊)が第38回土門拳賞に輝いた。同賞は「写真界の直木賞」と言われる。写真集が昨年12月に出版されて以来、高い評価を受けていた▼4月5日に東京の如水会館で行われた受賞式で、高橋さんはこう語った。「私がここに立っている今も、常にカンボジアの人たちのことを思っています」。秋田西高―日大芸術学部卒。秋田高の同窓の諸兄姉、在校生も手に取れば、きつと心を震わすに違いない1冊である。